

パネルディスカッション

■ 2025年11月15日(土) 8:30 ~ 10:00 ▲ 第3会場

[PD6] パネルディスカッション 6 直腸癌に対する側方郭清～省略可能症例を含めて～

司会：川合 一茂(東京都立駒込病院大腸外科), 上原 圭(日本医科大学消化器外科)

[PD6-4] 進行下部直腸癌に対するNACの役割

高橋 吾郎, 山田 岳史, 上原 圭, 松田 明久, 進士 誠一, 横山 康行, 岩井 拓磨, 宮坂 俊光, 香中 伸太郎, 松井 孝典, 菊池 悠太, 林 光希, 吉田 寛 (日本医科大学消化器外科)

【背景】術前の画像検査にて側方リンパ節 (lateral lymph node; LLN) 転移陽性の場合は、側方郭清 (LLND) を行うことが強く推奨されている。一方で、リアルワールドにおいてLLN転移陰性例に対するLLNDは、各施設ばらつきがある。本研究では、進行下部直腸癌に対する(neoadjuvant chemotherapy: NAC) の治療効果と側方リンパ節再発の関連性を検討した。

【対象と方法】対象は2012年7月から2023年7月までに、当科で根治手術を施行したcStage II-III下部直腸癌症例。NACおよびupfront surgery (upfront群) のLLN再発率を後方視的に検討した。当科は、治療的LNNDのみを行う方針としている。

【結果】対象は185例 (NAC群82例, upfront群103例)。NACレジメンは、FOLFOX42例、CapeOX40例。観察期間中央値はNAC群4年1ヶ月、upfront群4年5ヶ月。患者背景はNAC群 vs. upfront群で、年齢：64歳 vs. 72歳、男性/女性：65/17 vs. 59/44であり、NAC群で有意に年齢が若く、男性が多かった ($p<0.001$ 、 $p=0.017$)。cStage IIIの割合は63% (52/82) vs. 54% (56/103)、術後合併症 (Clavien-Dindo ≥ 3) の頻度は17% vs. 14%と、2群間で差を認めなかった ($p=0.23$, $p=0.68$)。LLNDはNAC群で15例、upfront群で15例に施行されていた。LLN再発はNAC群、upfront群でそれぞれ7.3% vs 7.7%であり差を認めなかった ($p=1.0$)。サブグループ解析では、NACによるdown staging (DS+) が得られた症例のLLN再発率は0%であり、DS-症例13.3%、upfront群7.7%と比較して低い傾向を示した ($p=0.057$)。ycStageとypStageの一致率は57% (47/82) であり、過小評価がなされていた症例は14.6% (12/82) であった。

【考察】NACでDS+症例のLLN再発率はupfront surgeryと比較して良好であり、治療的LLNDの治療方針が妥当であること示唆された。一方で、DS-症例に対しては、予防的LLNDや放射線照射の必要性が示唆された。